

令和5年度 特養事業報告書

特別養護老人ホーム 彦岳の太陽

《 実施目標 及び 実施状況と今後の課題 》

1 運営の安定化

令和5年度の稼働率は、4月の90.7%をピークに徐々に低下していき、本年2月には、最低の65.5%を記録した。令和5年度の稼働率平均は、79.4%と前年度を大きく下回った。

原因としては、新型コロナウイルス感染症の影響で、入所予定者が感染したり、施設でクラスターが発生したりして入所者の選考手続きが遅れた事などが挙げられる。

また、入所者の介護度が平均4.4(昨年4.2)と重度化し、入所者の入院増加が挙げられる。重度化および医療の必要性は年々高まっているため、彦陽クリニックや佐伯中央病院と連携し早期の対応を行ってきた。そのため、入院の長期化は避けられており、質の高いサービスを提供し、引き続き入所者の体調管理に努めていきます。また、入院時の空床利用についても関係機関と連携を図ることで積極的に進めていきます。

2 介護の質の向上

接遇の向上については、令和5年度に身体拘束の事例は発生しておらず、引き続き入所者の尊厳を保持していきます。また、令和4年度にノーリフティング委員会を立上げ、抱えないケアを目指して活動を行っています。これまで抱えていた利用者様に、フレックスボードやスライディンググローブ等を用いることで職員の介護負担の軽減を図り、腰痛予防のため療法士と連携し介護方法の見直しによる腰への負担軽減にも取り組み、入所者の安全確保と職員の負担軽減を図ってきました。

3 人材育成・人材確保

新入職者や中堅職員の教育には、「新人教育マニュアル」等を活用し、係長、主任を中心に指導を行ってきた。引き続き、内部や外部研修等で人材育成に努めていきたい。

人材確保については、ハローワークや人材紹介業者等への登録、高校等の就職ガイダンスへも参加した。県外移住者や留学生へのアプローチを行い、県外移住者1名の採用と留学生2名の確保に繋がった。現在でも職員不足の状況であり、人材確保に向け、更なる対策が必要となっています。

4 役割の明確化

役職者(施設長、管理者、主任等)が、それぞれ業務の見直しや効率化、職員教育、責任等の役割の明確化に取り組んできた。令和4年度以降は、看護の体制も変わったことから、介護と看護の役割について検討を行い、互いの職種が協力することで、質の高いサービスが提供できるようになってきた。引き続き、利用者様が安心安全に利用できるようにしたい。